

平成18年度スローライフ研究科提言

スローライフ研究科では、2回の学外研修と5回の講座を持ちました。それらで勉強した中から次の3つを提言いたします。

1. 合併により中、加美、八千代の3町があつまって多可町になりました。

多可町にはそれぞれの地域に名所・旧跡がたくさんあり、また、地域特性を活かした施設もたくさんあります。これらをおおいにPRすることは地域活性化の原動力になると思われます。

今、稼働しているウォッチング号をもっと住民に知らせるとともに「多可ふれあいボランティアガイド」の活動を充実させ、より多くの多可町民が知識豊かに見て回れるような企画をお願いします。

2. スローライフ研究科では「スローフードの魅力 ―食べることは生きること―」をテーマに『食べることの意味をもう一度考えてみませんか』という演題で、食育料理研究家 坂本廣子先生の講演会をもちました。

食育とは「それぞれが体験を通じて体で覚え感じるにより次世代に伝承されていくものである」と話されました。

先生は神戸で3～6歳のこども料理教室を開かれています。「口で味を感じ、その感覚を自然に覚えることが大切である。体験を通じて体感することにより食について自信をもつことのできる子どもが育っていきます。」と話されました。

このように子どもの頃から料理に親しむことの大切さをふまえ、子どもたちが参加できる料理教室の開催をお願いします。

3. スローに生きる ―健康で長生きちょっと福祉のことも― 篠山市で「NPOイヌイ福祉村」を設立されている山中先生にお話ししていただきました。

障害者が心地よく生きられる社会が、じつは健常者にとっても快適な社会である。というノーマライゼーションの施策は多可町にとっても大切なことです。

「障害のある人と健常者が自然に接する場」、また、勉強会などの講座も必要ではないかと思えます。このような企画を検討されることを望みます。